

日本国憲法における地方自治に関する次の文中の下線部分ア～エのうちには  
妥当なものが二つある。それらはどれか。

「地方自治の本旨」には住民自治と団体自治の二つの要素がある。住民自治とは、地方公共団体の住民自身又はその代表者が自治を行うことであり、団体自治とは、地方公共団体を設けて国からの分権を図ることを言う。住民自治の原則を具体化するものとして、ア地方公共団体の長、議会の議員を住民が直接選挙することなどが挙げられる。また、団体自治を具体化するものとしては、イ条例制定権が挙げられる。憲法では、イ条例は国の法律と対等なものと位置付けられており、エ地方公共団体が定めた条例が国の法律の趣旨に矛盾した場合でも、当該団体においてはその条例は有効である。

地方分権化の推進を図るために2000年に地方分権一括法が施行された。これにより従来の機関委任事務は廃止され、地方公共団体の事務はウ自治事務と法定受託事務の二つとなり、国と地方公共団体との関係が大きく変わった。財政においては、2004年度から進められた三位一体改革により国から地方へ税源が移譲され、地方財政の歳入において地方税等の自主財源の占める割合はエ8割程度にまで上昇した。

1. ア, イ
2. ア, ウ
3. ア, エ
4. イ, ウ
5. イ, エ

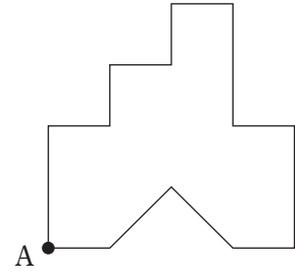
硝酸カリウムは、水100 gに20℃で32 g 溶ける。20℃の硝酸カリウム飽和水溶液300 gを加熱して水を蒸発させ、再び20℃に冷却したところ、硝酸カリウムの結晶が析出していた。このとき、結晶及び飽和水溶液が225 gであったとすると、析出した結晶は何 gか。

なお、硝酸カリウム飽和水溶液とは、限度まで硝酸カリウムを溶かした水溶液をいう。

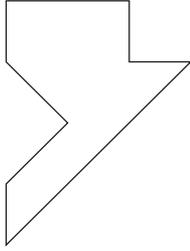
1. 12g
2. 16g
3. 20g
4. 24g
5. 28g

(教養試験 警察官A NO.3)

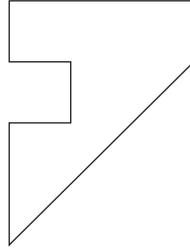
1 辺が 4 cm の正方形の紙から、1 辺が 1 cm の正方形を五つと斜辺が 2 cm の直角二等辺三角形を一つ取り取ったところ、右図のようになった。この紙を、頂点 A を通る元の正方形の対角線の位置で折ったとき、できる図形の輪郭として妥当なのはどれか。



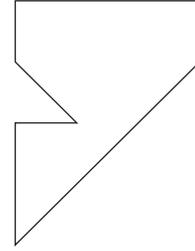
1.



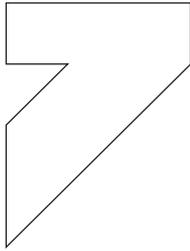
2.



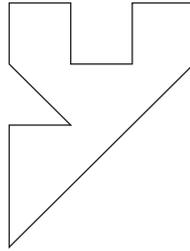
3.



4.



5.



正答番号 3